

在宅福祉情報誌

令和3年3月15日発行

わっこ

西和賀町社会福祉協議会

〒029-5512 西和賀町川尻 40-73-82

☎0197-84-2161 ☎0197-82-3572

ホームページ <http://nishi-shakyo.net/>

できて 20 年の業界

かつては家族が行っていた介護。主に低所得者、身寄りのない人を中心、行政の判断により介護が提供されていた時代が長く続いていました。

2000年の介護保険制度の開始により利用者は自分で介護サービスを選べるようになり、介護保険サービスを利用する人も増え、国は介護改正を重ね、現在では安心できる介護サービスが提供されるようになりました。介護保険は、公的サービスであるため、「利益や収入を得る」より「人の役に立つ、社会に役に立つ」業界といえます。

携わるサービスや職種

大きく分けると直接介護をする仕事と間接的に介護の仕事をする

介護の現場としくみ

る業務があります。

介護は、かつては家族が介護を行っていたこともあり、誰にでもできる仕事と言われた時代もありましたが、今では、介護の仕事は高齢者の生き方や命に向き合う専門性が求められる仕事という認識に変化してきています。

各事業所の運営をスマーズにする事務職は、職員が安心して介護サービスを提供するためになくてはならない仕事といえます。

職場環境は

改善されています

介護は、活動の場が人目に触れることが少ないので、社会に見えにくいという特性があり、一昔前には、介護の3K(キツイ・キタナイ・キケン)というマイナスイメージでしたが、今は、職場の環境の改善が進み、専門的な介護知識と技術を学ぶこ

福 祉 の 動 き

とで「より楽に」「より清潔に」「より安全に」介護を行える職場環境が整い始め、仕事を通じての喜びが多くあることも事実です。

仕事が大変であった分「ありがとう」と感謝していただいた時の喜びはひとしおです。

この活動が、良いものになることを期待します。

皆様に支えられています



西和賀町社会福祉協議会では、毎日朝夕の「デイサービスにしわが」の送迎時や「ホームヘルプにしわが」「訪問入浴にしわが」でご利用者のお宅の訪問で町内を廻っております。

特に冬期間のデイサービスの送迎で対向車の方に道を譲っていただいたり、細い道では、後退しているのを待っていただいたり、ヘルパー訪問時の駐車の際には、近隣の方のご自宅の前の駐車場に車を停めさせていただいたりなど皆様に支えられて介護サービスを事故なく行うことができております。職員一同感謝しております。

利用者の声

Kさん「香りが良くてよかつた」
Hさん「ぽかぽかして、温かい。
えがつた」
Sさん「ゆずで顔ツルツル☆」
職員「皆さん、5歳も若くなつて
顔がピッカピッカ！」
皆さん「んだべえ、んだべえ」(笑)



悠々館のアイドル「ガー子」
が一番風呂でした 温泉

コロナ禍でボランティアさんも
自粛で寂しいと思っていたところ。
12月21日 職員の粋な計らいで
一日限定でゆず湯入浴となりまし
た。

冬至の日にゆず湯に入ると風邪
をひかないと言われています。

利用者の声

Aさん「えがつた、また長生きでき
る。いつもありがたい」
Tさん「うめごど。いつもありがと
うごつおさん」
Yさん「うちの孫作った?」
職員「うん、そうだね」(微笑む)



湯田小学校副校長が届けて
くださいました
ありがとうございました

今年も湯田小学校の児童の皆さん
から新米をいただきました。
毎年、湯田小学校の児童の皆さん
が、体験学習の一環として行つ
ている農業体験で地域の皆さんか
らお米作りをご指導いただき、收
穫した新米を悠々館にいただき、
利用者の皆さんは、美味しいいた
だいております。

冬至のゆず湯で ぽかぽか巡

美味しい新米

今年もありがとうございました

お誕生月には、利用者さんの希望のメニューで昼食を提供させていただいています。その日利用しての方も同じメニューでお祝いをします。

特にラーメンが大好評です。「わ
げえ時は、食いに行つたけど」「あ
あ、んめえ」満面の笑みで完食さ
れています。

毎日降る雪に負けるもんか

連日の雪に職員も大変。施設の屋根に上がつての雪下ろし数回。こんなに屋根に上るとは、4月に遠野市から西和賀町に結婚して移住した藤原君は、「屋根に上がつての雪下ろし、今までの生きてきた中で初めて」と語る。



手前で作業しているのが
藤原君です
1年目にして貴重な体験
をしました

お誕生月の昼食